

# 一般社団法人国際文化協会定款

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人国際文化協会(以下「本会」という。)と称する。

(事 務 所)

第2条 本会は、主たる事務所を東京都中央区に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は、日本及び海外との文化並びに人的交流を通じた相互理解の促進、環境保護活動の支援、その他社会貢献活動の推進、国際交流イベントとしてのビューティコンテストの開催による海外諸国との友好親善に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. (1) 日本文化及び海外文化に関する情報の収集と国内外への発信  
(2) 青少年の国際交流並びに留学生の支援  
(3) 地域あるいは学校等の国際交流活動への支援  
(4) 女性の社会進出のための教育、啓蒙活動  
(5) ユニセフ等への寄付及び他団体との協力による社会貢献活動  
(6) ミス・インターナショナル世界大会並びに日本代表選出大会の開催  
(7) その他本会の目的を達成するために必要な事業
2. 前項の事業は本邦及び海外において行うものとする。

## 第3章 会 員

(本会の構成員)

第5条 本会の会員は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人
- (2) 賛助会員 本会の目的に賛同して入会した法人又は団体

2. 前項の会員のうち正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下「一般法人法」という。)上の社員とする。

(社員の資格の取得)

第6条 本会の会員になろうとする者は、本会理事会において別に定める申込書により入会を申込み、総会の承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第7条 本会の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は、会員になった時及びその年以後毎年、総会において別に定める入会金及び年会費を支払う義務を負う。

(退会)

第8条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1)この定款その他の規則に違反したとき。
- (2)本会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3)その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第10条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1)第7条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2)総正会員が同意したとき。
- (3)当該会員が死亡し、又は解散したとき。

## 第4章 総会

(構成)

第11条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2. 前項の総会をもって、一般法人法上の社員総会とする。

(権 限)

第12条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 新入会員の承認及び会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の金額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第13条 当法人の社員総会は、定時社員総会及び臨時社員総会とし、定時社員総会は、毎事業年度の終了後3か月以内に開催し、臨時社員総会は、必要に応じて開催する。

(招 集)

第14条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の10分の1以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

(議 長)

第15条 総会の議長は、会長がこれに当たる。会長に事故若しくは支障があるときは、理事会においてあらかじめ定めた順位により、他の理事がこれに代わる。

(議 決 権)

第16条 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決 議)

第17条 総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任

- (3)定款の変更
  - (4)解散
  - (5)その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第19条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
  - 4 正会員は本会の議決権を有する他の正会員1名を代理人としてその議決権を行使することができる。この場合正会員または代理人は総会ごとに代理権を証明する書面を当会に提出しなければならない。

#### (議事録)

第18条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に記名押印する。

### 第5章 役員

#### (役員の設定)

第19条 本会に、次の役員を置く。

- (1)理事 3名以上15名以下
  - (2)監事 2名以内
- 2 理事のうち1名を会長とする。
  - 3 会長以外の理事のうち1名を理事長、1名を業務執行理事とする。
  - 4 第2項の会長をもって一般法人法上の代表理事とする。

#### (役員を選任)

第20条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

- 2 会長及び理事長並びに業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

#### (理事の職務及び権限)

第21条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長は、会長を補佐する。

- 4 会長及び業務執行理事は、毎事業年度に4ヶ月を越える間隔で2回以上自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第22条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第23条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。
- 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとし、増員として選任された理事の任期は、他の現任者の任期の満了する時までとする。
- 4 理事又は監事は、第19条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第24条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

第25条 理事及び監事は、無報酬とする。

(顧問)

第26条 本会に、顧問を10人以内置くことができる。

- 2 顧問は、学識経験者又は本会に功労のあった者のうちから、理事会の推薦により、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の運営に関して会長の諮問に応え、又は会長に対して意見を述べる。
- 4 第23条第1項の規定は、顧問について準用する。
- 5 顧問の報酬は、無償とする。

(特別理事)

第27条 本会に、特別理事を15人以内置くことができる。

- 2 特別理事は、本会の理事経験者又はそれに準ずる者で、理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 3 特別理事は、本会の活動に適時参加し当該活動について協力並びに助言する。なお、特別理事は、理事会の構成員ではない。
- 4 第23条第1項の規定は、特別理事について準用する。
- 5 特別理事の報酬は、無償とする。

#### (取引の制限)

第28条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合には、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

- (1) 自己又は第三者のためにするこの法人の事業の部類に属する取引
- (2) 自己又は第三者のためにするこの法人との取引
- (3) 本会がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間におけるこの法人とその理事との利益が相反する取引

- 2 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく理事会に報告しなければならない。

#### (責任の一部免除又は限定)

第29条 本会は、役員的一般法人法第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合は、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる。

- 2 本会は、外部役員との間で、一般法人法第111条第1項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、賠償責任を限定する契約を締結することができる。ただし、その契約に基づく賠償責任の限度額は、金10万円以上でこの法人が予め定めた額と法令の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする。

## 第6章 理事会

#### (構成)

第30条 本会に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

#### (権限)

第31条 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

- (1) 総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定
- (2) この法人の業務執行の決定

(3) 理事の職務の執行の監督

(4) 会長及び理事長並びに業務執行理事の選定及び解職

2 理事会は、次に掲げる事項その他の重要な業務執行の決定を理事に委任することはできない。

(1) 重要な財産の処分及び譲り受け

(2) 多額の借財

(3) 従たる事務所その他重要な組織の設置、変更及び廃止

(4) 理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他この法人の業務の適正を確保するために必要な法令で定める体制の整備

(5) 第27条第1項の責任の一部免除及び同条第2項の責任限定契約の締結

(招 集)

第32条 理事会は、会長が招集する。

2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、理事長が理事会を招集する。

3 会長以外の理事は会長に対し、理事会の目的である事項を示して理事会の招集を請求をすることができる。

この場合、招集の請求あった日から5日以内にその請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした理事は理事会を招集することができる。

(議 長)

第33条 理事会の議長は、法令に別段の定めがある場合を除き、会長がこれに当る。

(決 議)

第34条 理事会の決議は、この定款に別段の定めがある場合を除き、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(報告の省略)

第35条 理事又は監事が、理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは当該事項理事会へ報告することを要しない。ただし、第21条第4項の報告についてはこの規定を適用しない。

(議 事 録)

第36条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成し、出席した理事及び監事が署名又は記名押印して10年間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

## 第7章 資産及び会計

〈資産の構成〉

第37条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1)財産目録に記載された資産
- (2)入会金及び年会費
- (3)寄付金品
- (4)資産から生ずる収入
- (5)事業に伴う収入
- (6)その他の収入

(資産の管理)

第38条 この法人の資産の管理は、会長が行なうものとし、その方法は、理事会の決議により別に定める。

(経費の支弁)

第39条 この法人の経費は、資産をもって支弁する。

(事業年度)

第40条 この法人の事業年度は、毎年8月1日から(翌年)7月31日までの毎1期とする。

(事業計画及び収支予算)

第41条 本会の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第42条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 損益計算書(正味財産増減計算書)
  - (5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号及び第4号の書類については、定時総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。
  - 3 第1項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款及び会員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

## 第8章 定款の変更及び解散

### (定款の変更)

第43条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

### (解 散)

第44条 本会は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

### (残余財産の帰属)

第45条 本会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

- 2 本会は、剰余金の分配を行なわない。

## 第9章 事務局

第46条 本会の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。
- 3 事務局長及び重要な職員は、会長が理事会の承認を得て任免する。

## 第10章 公告の方法

### (公告の方法)

第47条 本会の公告は、官報に掲載する方法により行う。

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 本会の最初の代表理事は下村朱美とする。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第38条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 4 本定款は、平成26年7月4日より施行する。
- 5 本定款は、平成27年12月18日より施行する。
- 6 本定款は、平成28年5月23日より施行する。
- 7 本定款は、平成28年12月19日より施行する。
- 8 本定款は、令和2年7月1日より施行する。
- 9 本定款は、令和5年7月11日より施行する。